

中央大学 法と正義の資料館・大学史資料館

館報（2024年度）



2025年4月

中央大学資料館事務室

## 目次

1. はじめに（館長ご挨拶） .....	1
2. 活動報告 .....	3
<b>【法と正義の資料館】</b>	
(1) 展示関係 .....	3
(2) 高校生プログラム関係 .....	5
<b>【大学史資料館】</b>	
(1) 展示関係 .....	9
(2) シンポジウム関係 .....	11
<b>【共通（来館者数等）】</b>	
① 2024 年度来館者数一覧 .....	13
② 2024 年度団体来館一覧 .....	13
③ 2024 年度授業利用一覧 .....	13
3. 2025 年度の活動予定（今後の課題） .....	14
<b>【法と正義の資料館】</b>	
(1) 展示関係 .....	14
(2) 高校生プログラム関係 .....	14
<b>【大学史資料館】</b>	
(1) 展示関係 .....	16
4. 資料館概要 .....	17

## 1. はじめに（館長ご挨拶）

中央大学 法と正義の資料館・大学史資料館 館長 大貫裕之  
(学校法人中央大学常任理事・中央大学大学院法務研究科教授)

### 【法と正義の資料館について】

「法と正義の資料館」は、基本的人権の擁護や正義の実現のために歴史上枢要な役割を果たした法曹その他の偉人の業績を広く顕彰することにより、教育にも資することを目的とした資料館です。2024年4月、中央大学多摩キャンパス内に「大学史資料館」と同時に開館しました。

本資料館は、法と正義、人権の理念について歴史的そして理論的に検討する「常設展」を設けます。正義、人権の実現のため人々は行動し、その実現を勝ち得ました。普遍的正義というものは、黙っていても実現するものではありません。正義や人権の実現のためには、個々人の行動が必要です。正義の実現、人権の保護のために行動された方々にも「企画展」を通じて焦点をあてることにします。

また、これらの展示を通じて法と正義について思索をする機会として、広く高校生を対象としたプログラムを実施します。

日本弁護士連合会様には本館開館時からご後援を賜っております。当該関係に基づき、淵上玲子会長から来館者の学修に供する図書のおすすめを賜り、また、展示の構想について執行部の皆様からご助言等を頂戴しています。

本書により、後援団体としての日本弁護士連合会様に、開館初年度である2024年度の諸活動についてご報告申し上げる次第です。

これまでのご協力にお礼申し上げますと共に、今後も本資料館に厚いご支援を賜れますようお願い申し上げます。

## 【大学史資料館について】

中央大学は、1885年に英吉利法律学校として設立されました。その後、校名は変遷しましたが、1905年に中央大学と改称され現在にいたっています。同年の二十年史を皮切りに、以来節目ごとに編纂物が刊行されてきました。1980年には百年史の編纂のため、大学史編纂課が設置され（のちに大学史資料課）、同課を中心に資料の収集・保存がおこなわれてきましたが、そうした資料をまとめた形で公開できる施設はありませんでした。本資料館は、本学の歴史および本学関係者の事績等について、調査をするだけでなく、その成果を在学生の教育に生かし、更に広く社会にも発信するための施設です。

「常設展」では、創立以来の本学のあゆみを知ることができます。「企画展」では大学の歴史の特徴的な側面を取り上げる予定です。

1つの大学が保有する資料は社会の共有の知的資源であり、本資料館は本学の発展のみならず、大学にかかわる学術の進歩に大いに貢献できるものと信じます。

## 2. 活動報告

### 【法と正義の資料館】

#### (1) 展示関係

##### 1. 第1回企画展「医学的証言を覆せ—弁護士松波淳一の闘い」

###### (1) 開催概要

期間：2024年4月1日～2025年3月31日

場所：中央大学多摩キャンパス炎の塔2階 法と正義の資料館企画展示室

###### (2) 企画概要

1960年代、高度経済成長期の日本では、各地で公害が発生していた。本展ではこうした公害訴訟において被害者たちの権利のための訴訟を支援し、救済を求めて法廷で闘った松波淳一弁護士を中心とした展示を行った。

松波は富山県氷見市に生まれ、郵便局で働きながら中央大学法学部夜間部に学び、司法試験に合格する。公害裁判では医学的問題を徹底的に研究し、新たに得た医学知識で専門家を相手に堂々とした反対尋問を展開した。

本展では、松波が弁護士になるまでの「立志編」、公害裁判に立ち向かった「弁護士奮闘編」、後進へ知識・経験を伝えた「執筆編」と3つのテーマを設け、松波の活動を振り返る。

The poster features a central image of two people sitting on a bench. Text on the poster includes: '中央大学 法と正義の資料館 第1回企画展 入場無料', '医学者証言を覆せ 弁護士松波淳一の闘い', '2024.4.1 mon - 2025.3.31 mon', '会場：中央大学 法と正義の資料館 企画展示室', '開館時間：10:00-17:00 / 休館日：日曜・祝日', '中央大学 法と正義の資料館 The Museum of Law and Justice', and '中央大学' logos.

1960年代、高度経済成長期の日本では、各地で公害が発生していた。本展ではこうした公害訴訟において被害者たちの権利のための訴訟を支援し、救済を求めて法廷で闘った松波淳一弁護士を中心とした展示を行った。

松波は富山県氷見市に生まれ、郵便局で働きながら中央大学法学部夜間部に学び、司法試験に合格する。公害裁判では医学的問題を徹底的に研究し、新たに得た医学知識で専門家を相手に堂々とした反対尋問を展開した。

本展では、松波が弁護士になるまでの「立志編」、公害裁判に立ち向かった「弁護士奮闘編」、後進へ知識・経験を伝えた「執筆編」と3つのテーマを設け、松波の活動を振り返る。

弁護士松波淳一の闘い

1941年完全勝利 1941対敵協会

入場料 / 入場無料 開館時間 / 10:00-17:00  
休館日 / 日曜・祝日 中央大学 法と正義の資料館 企画展示室  
交通案内 / 中央大学多摩キャンパス「炎の塔」2階（多摩キャンパス）中央大学 法と正義の資料館 企画展示室  
〒112-8522 東京都八王子市中央町7-2-1 / TEL 042-476-2102 / FAX 042-476-2203  
中央大学 法と正義の資料館 [https://www.shu-u.ac.jp/ibsona/info/museum/law\\_and\\_justice/](https://www.shu-u.ac.jp/ibsona/info/museum/law_and_justice/)

第1回企画展「医学的証言を覆せ—弁護士松波淳一の闘い」チラシ

## 2. インターネット企画展「医学的証言を覆せ—弁護士松波淳一の闘い」

### (1) 開催概要

期間：2025年2月26日～（公開）

場所：第1回企画展のインターネット上での公開

[https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/museum/internet\\_exhibition/matsunami/](https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/museum/internet_exhibition/matsunami/)

### (2) 企画概要

イタイイタイ病弁護団の中心として活躍した松波淳一弁護士はイタイイタイ病裁判で被告側に立つ科学者・医学者の証言を反対尋問で覆し、公害裁判のあり方をも変える勝訴判決を獲得することに成功する。その後は、スモン病、水俣病弁護団等の公害裁判に携わり、一貫して被害者救済に尽力した。

当館では、こうした松波弁護士の活動を紹介するため、開館にあたり松波氏からご寄贈頂いた蔵書をはじめとする多くの貴重な資料を活用して、第1回の企画展として「医学者証言を覆せ—弁護士松波淳一の闘い」を実施してきた。本展では、この企画展をさらに広く日本中に伝えるため、インターネット特別展という形で装いを新たに公開していく。

## (2) 高校生プログラム関係

### 2024年度の高中生プログラム

#### 1. 高校生プログラムの目的

法と正義の資料館は「基本的人権の擁護や正義の実現のために歴史上枢要な役割を果たした法曹その他の偉人の業績を広く顕彰することにより、教育にも資することを目的とした資料館」である。

この目的の後段——教育にも資する——を実現するために、来館者に展示資料を提示するだけでなく、広く高校生を対象とする【高校生プログラム】を計画した。

プログラム参加者が正義について思索するきっかけをつかんで考えを深め、さらには日々の学習活動や将来の進路選択が「基本的人権の実現」を視野に置いたものになってほしい。私たちはそのように願っている。

#### 2. 概要

##### ● 初年度の実施形態

- 大きく二つのブロックに分かれ(休憩をはさんでほぼ1時間ずつ)、前半は展示見学の時間、後半は各5人ほどのグループに分かれて調査、グループディスカッションおよび全体ディスカッションなど作業的な時間をとった。
- プログラム参加生徒たちが実施内容を思い返し、さらに今後の学習を促すために、事後学習資料集を提供した。

##### ● 内容

- 1時間目は展示についての説明を聞きながら、また並行して、ワークシートに記入しながら展示を見学。当資料館の展示は、現物資料で目を引くよりも一定の文字量で説明することに特徴があり、ワークシートは文章を読み込む際の観点を提示した。
- 2時間目は、まず展示資料、映像資料に採り上げられている水俣病事件など特定の事例にテーマを絞り、すでに持っている知識を広げ、さらに多様な視点を得るために、各人がインターネット検索によって調査を行った。
- 2時間目後半では調査結果をグループ内で共有し、さらに全体発表することで共有を広げ、それぞれが視野を広め、認識を深める場とした。
- 共有したことをふまえて、正義＝人権の実現のために、自分(たち)が何をすべきか、何ができるか、といったことについて意見交換を行った。
- 事後学習資料集には、国連憲章、日本国憲法、世界人権宣言、旧教育基本法、弁護士法、男女雇用機会均等法、子どもの権利条約などを抜粋で掲載した。

### 3. 初年度の実施状況

- ① 2024年6月15日 中央大学高校 3年生13名
- ② 6月29日 中央大学法学部森教授ゼミ 大学1年生15名
- ③ 7月13日 中央大学附属校(中大附属、中大杉並、中大横浜) 3年生3名、2年生6名
- ④ 8月3日 跡見学園高校 2年生5名、1年生11名
- ⑤ 10月26日 横浜国立大学教育学部小沢准教授授業 大学3年生24名
- ⑥ 12月14日 公募生徒(1) 3年生1人、2年生2人、1年生1人
- ⑦ 2025年2月8日 公募生徒(2) 2年生14人、1年生1人、中学3年生1名(特別参加)

※②と⑤は大学生を対象とし、大学生の視点から、プログラム内容の改善点などアイデアも求めた。

### 4. 募集について

初年度の募集は以下のような形態をとった。①は先生方が関心を持ちそうな生徒を対象に声をかけて下さり、②⑤は先生方がゼミおよび授業受講者に参加を義務付けた。③④は学校を通じて公募し、⑥⑦では周辺高校へのポスター掲出、さらにホームページと公式 X に募集記事を掲載した。この最後の募集では千葉市、取手市やさいたま市、関西圏(京都、大阪)からも応募者があって、インターネットによる反響に驚かされるとともに、私たちは「正義について考えたい」高校生たちの存在を知ることになった。

### 5. 参加者の感想から

- 私たちが日頃ふれたり、学んでいる法律は“守っていればいい”的な意識しかなかったけれど、どういう過程を経て作られていたか、また、そこにも問題を抱えているため、日々変わっていることを学びました。
- 正義というものの移り変わりを見て、現状の社会は良いものだと思いつつも、そこから見えてくる課題というものも多くありました。例えば、子どもの権利です。最後の時間に調べたものとして「高校生の政治活動を制限するか否か」という問題がありました。それについて判例が2つあることが問題だと考えました。なぜかという第一章で見たように、裁判は裁判官個人個人の正義のもとづくものではないので、判例が2つあること事態がおかしいと思いました。このように最近になってでてきた問題を解決するのは、今ある法律だけでは、難しいのかと思いました。
- 何が不正義であるかというのを探す作業は、日常でもやるべきだと感じた。
- 正義の歴史に着目したことは今までなかった視点なので、そこはとても新しかった。時代によって正義は移り変わり、その移り変わりによって法も変遷している。ただ、時代が流れて、その正義が不正義と思われるようになった時に、民衆が立ち上がり打倒されて行くのかなと思う。
- 私の正義を見直しつつ、不正義に走らぬように気をつけていきたいと思いました。

- 展示を見て、班の人と意見を共有することで、このような考えもあったんだ、と新たな視点から、正義について考えることができるようになりました。正義へたどりつくために、不正義とはどういうものなのかを捉えて考えるようにしたいと思いました。
- 不正義な目にあっている人のために何ができるか、「かわいそう」と思うだけではなく少しでも小さな一歩だとしても行動に移すことが大切だと感じました。
- なぜ、過去にあったことを学ぶのか、という今まで自分の中にあった問いに答えができたようでうれしかったです。
- 最初、不正義ということが分からなかったけど、水俣病の被害者が受けた差別などの被害を知って不正義の意味が理解できた。
- 正義について考えるときに、不正義という視点から考える機会がなかったので展示から不正義を見つけるという今回の講座はとても新鮮でおもしろかったです。

## 6. 実践を振り返って

資料館のきわめてユニークな性格もあって、この高校生プログラムをどのように実施するか、担当者としては、準備中のみならず開始後も逡巡を重ねる日々であった。しかし、基本的人権の実現という立場から「不正義に気付こう」「正義を探して実現しよう」と呼びかけるプログラムに、高校生たちは真摯に向き合う姿勢を示してくれた。

常設展の展示資料第2章は世界史の復習のような流れになっていて、一見しただけでは新鮮味に欠ける。しかし、正義(またはその対極として当時の人びとが克服しようとした不正義)という観点を提示することで、新たな感覚をもって展示見学、資料読解できた生徒のいたことが、感想からうかがえる。

また、イェーリング「権利のための闘争」から出発して弁護士の歴史に焦点を当てた第5章のところで、弁護士としてのリンカン、ガンディが紹介されている展示資料、また弁護士法ほか日本の弁護士の活動について、強い関心をもって展示文を読み込む生徒たちの姿が印象に残る。

そして、後半の調査作業とディスカッションにおいて、新たな知識の獲得や、一層深い認識を得られたのではないだろうか。

例えば水俣病事件は教科書に記載され、多くの生徒にとってすでに知っている出来事である。それだけに歴史上の出来事に固定される危険がある。だが、今回の取り組みはそれを現代の問題としてとらえなおすきっかけとなったことが、彼らの感想から伝わってくる。また、ディスカッションの場でも、そうした思いが語られた。

上述のように担当者として逡巡を重ねた末のプログラム実施であったが、手直しを進めながら回を重ね、高校生たちとともに法と正義を考える、広い意味での法教育の場、その一つになり得ているのではないか。そんな思いをもって、担当者は振り返っている。

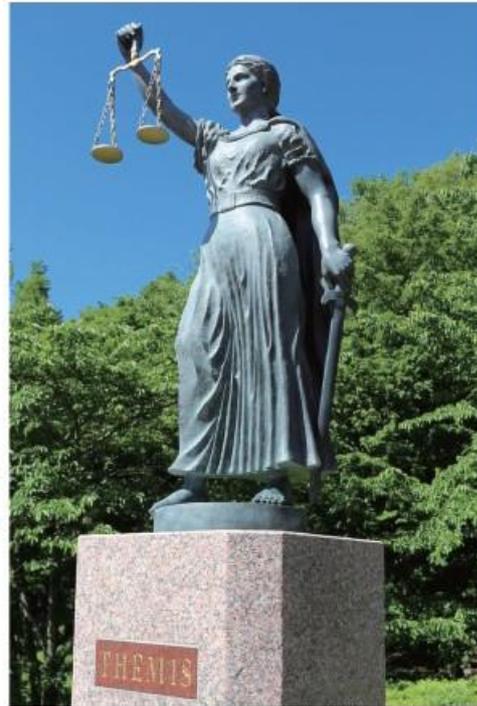
# 中央大学 法と正義の資料館 教育プログラム

## “正義”の扉を開こう

有史以来、人間は正義を切望し、正しいルール＝法について考えてきました。人権に光の当たった市民革命以後、法の重要性はますます高まり、現代に至って、不正義に苦しむ人を救済するその役割はいよいよ大切になっています。

高校生の皆さん。このプログラムで「法と正義」の理論と歴史を学び、私たちが生きる現代に、正義の実現を考えてみませんか。

皆さんの参加を心から待っています。



多摩キャンパスのテミス像

### 法と正義の資料館 教育プログラム

所要時間 約2時間

#### 第1時間

資料館常設展と企画展の見学



#### 第2時間

ディスカッション



教育プログラムの内容については、チラシまたは資料館 web サイトからご確認いただけます

### 開催スケジュール

- ①2024年12月4日(土) 14:00～16:00
  - ②2025年2月8日(土) 14:00～16:00
- 各回定員 20名
- ※申し込み多数の場合は抽選とします  
あらかじめ、ご了承ください

### 参加申し込み

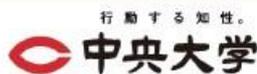
Google form より申し込んで下さい  
申し込み締め切り 11月23日(土)

URL

<https://forms.gle/uawb5cXnajZYpcg47>



### 中央大学多摩キャンパス 交通アクセス



行動する知性。

### 中央大学 資料館事務室

〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1

TEL:042-674-2132

法と正義の資料館 web サイト

[https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/museum/law\\_and\\_justice/](https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/museum/law_and_justice/)



法と正義の資料館 高校生プログラム「正義の扉を開こう」ポスター

## 【大学史資料館】

### (1) 展示関係

#### 1. 第1回企画展「中大とスポーツ—過去・現在・未来」

##### (1) 開催概要

期間：2024年10月14日（月祝・スポーツの日）～2025年4月19日（土）

第1部 中大オリンピック・パラリンピアンの活躍

2024年10月14日～2024年12月14日

第2部 中大スポーツと箱根駅伝

2024年12月20日～2025年4月19日

場所：中央大学多摩キャンパス炎の塔2階 大学史資料館企画展示室

##### (2) 企画概要

日本における体育・スポーツは、明治初期の大学や軍隊において始まった。1880年代になると、大学内に課外活動組織（クラブ/部）がつくられ、スポーツ活動が活発となる。体育・スポーツを奨励する背景には、身体運動活動がフィジカルの保持・増進・向上から個人と社会関係の形成に至る「人間陶冶」に資するというものがあった。

中大スポーツのはじまりは、学友会が創設された1911年にさかのぼる。学友会創設当時、体育部会は柔道など5部会が公認されていた。2024年現在は、体育連盟に49部会が所属し、活動を行っている。

本学は、1924年のオリンピックパリ大会以来、多くのオリンピック・パラリンピアンを輩出してきた。メダリストは35人にのぼり、48個のメダルを獲得している。

一方、日本の正月の風物詩で大学スポーツの象徴といえる箱根駅伝には、本学は1921年の第2回大会より出場してきた。優勝回数は14回で最多記録を誇る。

本展の第1部では、本学が輩出したオリンピック・パラリンピアンの活躍を紹介する。選手が獲得したメダルや使用された道具などをご覧いただく。第2部においては、箱根駅伝における陸上競技部の活躍を中心に、中大スポーツの軌跡を紹介する。出陳される襷やユニフォームなどからは、選手間の絆や思いなどを感じ取ることができる。

中央大学 大学史資料館  
第1回企画展

# 中大とスポーツ

—過去・現在・未来—

入場無料

**2024 10.14** mon - **2025 4.19** sat

第1期 / 中大オリンピック・パラリンピアン会館  
**10.14** mon - **12.14** sat

第2期 / 中大スポーツと歴史館  
**12.20** fri - **4.19** sat

中央大学 大学史資料館企画展/ 展覧時間 10:00-17:00 / 休館日 日曜・休日  
協力: 学員体育会、保健体育研究所、スポーツ課、強化指導室、CHUOスポーツセンター

中央大学 大学史資料館  
第1回企画展

## 中大とスポーツ

—過去・現在・未来—

日本における最先端「スポーツ」は、戦前戦中の大学スポーツにおいて自覚された。1918年頃に始まり、大正時代に高校体育連盟(学友会)がつくられた。スポーツが普及と伸びます。戦後、スポーツを奨励する背景には、身体活動が健康増進の基盤・増進・向上の個人生活実践の促進に資する(人間性)に資するところがある。

中大スポーツの歴史は、華美会が創設された1911年にさかのぼります。当会が創設された後、体育部が設置された1924年にさかのぼります。1924年創設は、体育部創設の経緯が異なる。経緯が異なります。1924年のオリンピックの大会成果、多くはオリンピック・パラリンピアンを輩出してきまし、その1人は38人にとり、48名のメダルを獲得しています。

一方、日本の正式のスポーツの大会といえる全日本選手権には、1924年12月1日の第1回大会が開催されています。開催場所は19回で最多回数を誇ります。

本展覧会では、各々が愛用したオリンピック・パラリンピアン選手の経歴を紹介し、選手が愛用したシューズやユニフォームの展示もご用意しています。会場においては、撮影禁止の区域と撮影許可の区域を明示し、中大スポーツの歴史を伝えます。ご来場の際は、お楽しみ品もご用意しています。

2021年オリンピック賞状入賞  
選手メダル  
(伊藤祥典氏(1994年東京五輪))

選手愛用品シューズ  
(佐藤雄太氏(2016年東京五輪))

選手愛用品ユニフォーム  
(2016年東京五輪)

企画展/中央大学多摩キャンパス1階2号館(多摩キャンパス) 中央大学 歴史学部 展覧時間 10:00-17:00  
〒182-8522 東京都立平井町4-1-7 TEL: 042-474-0122 / FAX: 042-474-0322  
URL: <http://www.chuo-u.ac.jp/about/visit/visiting/visiting/>

中央大学 大学史資料館  
The Museum of Chuo University History

中央大学  
CHUO UNIVERSITY

第1回企画展「中大とスポーツ—過去・現在・未来」チラシ

## (2) シンポジウム関係

1. 中央大学 大学史資料館開館記念シンポジウム 「多摩地域と私立大学」

主催：中央大学 大学史資料館

共催：中央大学政策文化総合研究所「地域社会の持続と歴史的資源の保存・活用」チーム、  
立川市

後援：たましん地域文化財団

### (1) 開催概要

開催日時：2024年10月5日(土) 13:00～17:00

開催場所：立川市女性総合センター (アイムホール) ※オンライン同時配信

### (2) 企画概要

日本の社会変容が進み、地域社会と大学が画期を迎えているいま、大学と地域の関係がいかにあるべきなのかが問われています。戦後、多摩地域に開設・移転した大学は、50校を超えます(短期大学を含む)。これらの大学は、地域社会の一要素となり地域の歴史・文化の一部を構成してきました。本シンポジウムでは、多摩地域に拠点をおく中央大学・明星大学・帝京大学の例からこの問題を検討します。

### (3) プログラム内容

開会挨拶

趣旨説明 一多摩地域と私立大学一 宮間純一 (中央大学文学部 教授)

≪第1報告≫

多摩地域と私立大学：「多摩地域の中の」大学と「大学の中の」多摩地域

高橋裕史氏 (帝京大学総合博物館 館長・帝京大学経済学部 教授)

≪第2報告≫

「多摩科目」群の取り組みと明星大学 高橋珠州彦氏 (明星大学教育学部 准教授)

≪第3報告≫

多摩地域と中央大学 北村厚介氏 (中央大学大学史資料館・資料館事務室)

コメント 保坂一房氏 (たましん地域文化財団歴史資料室)

討論

ファシリテーター：小林一岳 (明星大学教育学部 教授)

宮間純一 (中央大学文学部 教授)

# シンポジウム 多摩地域と私立大学

日本の社会変容が進み、地域社会と大学が密着を深めている。大学と地域の関係がいかにあるべきなのかが問われています。今後、多摩地域に開設・移転した大学は、50 校を超えます（短期大学を含む）。これらの大学は、地域社会の一要素となり地域の歴史・文化の一部を構成してきました。本シンポジウムでは、多摩地域に拠点を置く中央大学・明星大学・帝京大学の側からこの問題を検討します。

中央大学は、大学の歩みをたどることができる大学史料館を 2024 年 4 月 1 日にオープンしました。本シンポジウムはその記念行事として開催し、一般のみならずご参加も歓迎します。本シンポジウムが、多摩地域と私立大学の過去・現在・未来を、市民のみならずとも考える場となれば幸いです。

**日時**  
2024 年 **10 月 5 日(土)** 13:00~17:00

**会場**  
立川市女性総合センター  
(アイムホール)  
JR立川駅北口から徒歩7分

**参加費**  
**無料** ※お申し込みが必要です。

オンライン配信あり



立川市女性総合センター  
アイムホール

**プログラム**

13:00 開会式 多摩地域と私立大学 司会： 高橋一 中央大学 教授

13:15 講演 1 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

13:30 講演 2 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

13:45 講演 3 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

14:00 講演 4 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

14:15 講演 5 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

14:30 講演 6 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

14:45 講演 7 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

15:00 講演 8 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

15:15 講演 9 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

15:30 講演 10 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

15:45 講演 11 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

16:00 講演 12 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

16:15 講演 13 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

16:30 講演 14 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

16:45 講演 15 中央大学 立川キャンパス 開設の経緯と意義  
講演者： 高橋一 中央大学 教授

17:00 閉会式

右の二次元コードより10月2日(木)までにお申し込みください。  
オンライン参加の方には、URLなどの情報を送ります。



お問合せ/中央大学 事務局 一 03-4303-0001 or 03-4303-0100  
主催：中央大学 大学史料館  
共催：中央大学 地域文化圏研究  
「地域社会の持続と歴史的資源の活用」実行委員会、立川市  
後援：立川市 地域文化財団

シンポジウム「多摩地域と私立大学」ポスター

## 【共通（来館者数等）】

- ① 2024 年度来館者数一覧（中央大学大学史資料館を含む）  
計 6,619 名
- ② 2024 年度団体来館一覧（中央大学大学史資料館を含む）  
17 団体 計 316 名
- ③ 2024 年度授業利用一覧（中央大学大学史資料館を含む）  
17 回 計 314 名

### 3. 2025 年度の活動予定（今後の課題）

#### 【法と正義の資料館】

##### （1）展示関係

###### 1. 第2回企画展「森重昭と被爆米兵調査―戦争が終わるとのこと」

###### ①開催概要

期間：2025年5月17日～2026年3月31日（予定）

場所：中央大学多摩キャンパス炎の塔 法と正義の資料館企画展示室

###### ②企画概要

2025年はアジア・太平洋戦争の終戦から80年となる。こうした節目に、本展「森重昭と被爆米兵調査―戦争が終わるとのこと」では、2016年5月27日にオバマ大統領が史上初の現職大統領として広島を訪問した際、被爆者代表として抱擁を交わした本学出身者森重昭とその活動にフォーカスしていく。

森は広島への原爆投下に遭った被爆者である。森は戦後、日本軍の捕虜となり広島で被爆した米軍兵士の調査に従事し、被爆米兵の足跡を明らかにした。さらに被爆米兵の遺族に対し、自身の調査の内容を手紙で伝えるという活動を行っていった。

本展ではこうした森の活動から、戦後80年を迎える今、改めて「戦争が終わるとのこと」について考えてみたい。

###### 2. 2026年度以降の展示計画について

###### ①次期企画展について

「人権の擁護に尽くした弁護士」からテーマを設定することを検討中である。

##### （2）高校生プログラム関係

###### 2025年度の高校生プログラム

###### 1. 初年度実績を振り返って

2024年に資料館開館と同時にスタートした高校生プログラムは、全7回を、ほぼ順調に実施できた。この実施状況を受けて、2025年度以降、資料館の行事として継続・定着させていきたい。

新年度の形式として、①試行のタイプを発展させた20名規模、②新たに構想する100人

規模。以上の2つのタイプを想定している。

むろん、試行という位置づけで実施した今年度の取り組みでは、目標に照らして反省点や課題はある。今年度も、見直しを繰り返しつつ、進んでいくこととなろう。

## 2. 対象者と実施期日

- ① 2024年度の実績をふまえ、中大附属4校および一般高校へ募集を告知する。
- ② 中央大学高校「社会科研究」受講の3年生(約100名)を対象として、授業の一環に位置付ける。

## 3. 実施時期

- ① 2025年7月(ウェルカムイベント)、8月大学オープンキャンパス、9月中旬、11月中旬、12月中旬、2025年2月を想定。
- ② 2025年6月第3週(21日)。

※いずれも土曜日。

## 4. プログラム実施方法

資料館見学からディスカッションへ進む形は①②とも同様である。ただし、①が担当者もディスカッションに加わるのに対して、②では生徒たちが自分たちだけで討論し、その後、各人のレポートにまとめていく形になる。

## 5. 私たちの願い

この取り組みの中で、歴史を見る生徒たちの目の変化に私たちは気づいた。それは、人類の歴史が単なる出来事の流れなのではなく、人びとが不正義を乗り越えていく険しい道にほかならない、そうした視点の獲得による変化である。つまりは「権利のための闘争」に目が向いたということではないだろうか。

活動報告でも述べたように、私たちは「日々の学習活動や将来の進路選択が、基本的人権の実現を視野に置いたものになってほしい」と願っているが、そこに至る過程において、こうした新しい視点に立つ学びの姿勢が獲得されれば、これに勝る喜びはない。

## 【大学史資料館】

### (1) 展示関係

#### 1. 第2回企画展「中央大学創立140周年記念展示—140年のあゆみ」

##### ①開催概要

期間：2025年7月8日（火・創立記念日）～2026年4月27日（月）／9ヶ月（予定）

※インターネット特別展は同会期

場所：中央大学多摩キャンパス炎の塔 大学史資料館企画展示室

##### ②企画概要

2025年は中央大学創立140周年である。2025年度の大学史資料館第2回企画展示は、創立140周年を記念する企画展示を開催する。

本学は英吉利法律学校から始まり、経済、商、通信教育部、理工、文、総合政策、法務研究科、戦略経営研究科、国際経営、国際情報と学科・学部・専門職大学院を充実させてきた。

本学140年の歴史と合わせて各学部等の歴史や学びを示す所蔵資料を公開し、資料を基に編まれた周年史、特に2025年12月に発行予定の創立140周年史を紹介する。

常設展示とあわせて観覧することで、本学140年のあゆみを追体験し、本学の未来を共に考えていきたい。

創立140周年展開催に合わせて、インターネット特別展を開催する。

#### 2. 2026年度以降の展示計画について

##### ①次期企画展について

「学園祭」からテーマを設定することを検討中である。

## 4. 資料館概要

施設名称 中央大学 法と正義の資料館・大学史資料館  
事務所管 中央大学 資料館事務室  
所在地 東京都八王子市東中野 742-1 学生研究棟「炎の塔」2F  
連絡先 Tel (042) 674-2132  
Fax (042) 674-2203  
E-Mail arcshiryokan-grp@g.chuo-u.ac.jp  
URL <https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/museum/>

### 1. 建物概要

- 1) 構造 : 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上3階、地下1階
- 2) 設計監理 : 株式会社 佐藤総合計画
- 3) 施工 : 建築工事 鹿島建設 株式会社  
電気設備工事 日本電設工業 株式会社  
機械設備工事 株式会社 朝日工業社
- 4) 工期 : 2001年8月1日-2002年6月28日
- 5) 開館 : 2002年7月1日
- 6) 建築面積 : 2,163.34 m<sup>2</sup>
- 7) 延床面積 : 5,510.00 m<sup>2</sup>
- 8) 建築物の高さ : 15.25m
- 9) 展示室面積 : 107.172 m<sup>2</sup> (企画展示室)

### 2. 職員

事務職員3名、嘱託職員5名(内、学芸員資格保有2名)、他

### 3. 設定温湿度

#### 1) 展示室内(平均値)

温度: 夏季 25±2°C 冬季 21±2°C

湿度: 夏季 50~60% 冬季 30~40%

#### 2) 収蔵庫・前室

温度: 21±2°C

湿度: 50%

#### 3) 展示ケース内

ケース内にデータロガーを設置する。

ケース内に調湿保存剤(アートソープ等)を設置する。

空調設定は展示室内に準ずる。

#### 4. 展示室照明（光源）

- ・美術館・博物館用蛍光灯（紫外線吸着幕付き）を使用（天井設置）  
パナソニック社：FHS32N-EDL NU
- ・設定照度（展示資料表面）：40～75lx

#### 5. 防災・防犯体制

- 1) 消火：ハロゲン化合物消火設備（ハロンガス）、消火器
- 2) 開館時間の警備：展示室内は常時1～2名の職員を配置し、監視を行う。
- 3) 夜間の警備：警備員による夜間巡視。

行動する知性。

